

〔 編 集 後 記 〕

千葉医学雑誌第89巻6号をお届けします。本号ではオープンアクセスペーパー (OAP) 2編, 症例報告1編, 千葉医学会奨励賞論文1編, 千葉医学会例会報告3編が掲載されています。また, 来年度の千葉医学会賞の応募要領及び第7回のちばBasic & Clinical Research Conferenceの案内が掲載されています。

OAPは能川先生の「低HDLコレステロール血症発症に対する血清高感度CRP値の評価」と題する疫学研究と, 鈴木先生の「IKK2によるFcεRI誘導性脱顆粒の制御」と題する即時型アレルギーにおける肥満細胞の脱顆粒の分子メカニズムに関する研究の2編です。能川先生の論文は, 動脈硬化に関連する低HDL血症と高感度CRPの関連性を, 5年間で前向きに集積した7千人近い多数のサンプルで多変量解析を用いて解析した貴重な研究結果です。鈴木先生の研究は, 肥満細胞の脱顆粒にIKK2が関与していることを明らかにしたものであり, 今後の即時型アレルギーに対する新規薬剤開発に結び付く可能性があり期待されます。症例報告は, 野中先生による骨粗しょう症の治療薬として頻用されているビスホスホネート長期服用例に発生した非定型大腿骨骨幹部骨折5例を集積して報告した論文です。ビスホスホネートは本来骨を丈夫にするための薬ですが, 長期投与により骨折を来す可能性があるという貴重な報告であり, いずれの症例も本剤を5年以上服用した症例に発症していることから, 本剤の長期服用に警鐘を鳴らす報告だと思われます。千葉医学会奨励賞論文は放射線医学総合研究所の島田先生による「分子イメージングによる変性性認知症の病態解明」と題する論文であり, PETを用いて脳内アセチルコリン神経系の機能やβアミロイドの蓄積を評価することで, 認知症の診断や病態生理

の解明が飛躍的に進んでいることを窺い知ることができ, 今後のさらなる発展が期待されます。

千葉医学会例会報告として歯科口腔外科例会と精神科集談会の抄録が掲載されていますが, 加えて本年3月3日に附属病院第一講堂で開催された第2回臨床研修報告会の記録が掲載されています。この報告会は, 千葉大学病院の初期研修プログラム2年目の研修医が研究発表を行うものであり, 今回で2回目となります。千葉大プログラムの初期研修医は, 研修の仕上げとして, 本報告会での発表が義務付けられています。今回は29題の演題が発表され, 活発な討論が行われました。ご存知のように新臨床研修制度が始まって以来, 大学病院で初期臨床研修を受ける研修医は年々減少傾向にあり, 今年度の千葉大プログラムの研修医は20名 (マッチ率40%台) と危機的な状況になりました。大学病院では, このような現状を打開すべく研修医の待遇改善や教育指導の充実 (アテンディング制度) など, 様々な手を打ってきました。この研修会もその一つで, 厳正な審査を行って発表者の中から優秀演題を表彰するなど, 工夫をこらして実施していますが, 十分な周知がされていないせいか参加者が少ないのが現状です。幸い, 来年度のマッチ者数は40名 (マッチ率87%) と, 近年に近く増加しており, これまでの取り組みが少し実を結んだかとも思えます。今後安定的に千葉大プログラムの初期研修医を増やすことが, 喫緊の課題となっています。初期研修医の増加は, 千葉医学会の発展のためにも不可欠です。先生方におかれましては初期臨床研修医確保の重要性を今一度ご考慮いただき, リクルートへのご協力や研修報告会へのご参加を切にお願いする次第です。

(編集委員 織田成人)